

令和4年4月13日

都道府県教育委員会教育長
指定都市教育委員会教育長 様

京都市長 門川 大作
〔担当：産業観光局観光 MICE 推進室〕
〔電話：075-746-2255〕

京都への修学旅行の実施について ～修学旅行の安心・安全とSDGs探求学習プログラムの充実～

平素より、京都への修学旅行の実施につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、子どもたちに寄り添いながら、安心・安全の確保と学校教育活動の両立に御尽力されていることに敬意を表します。

さて、本市におきましては、修学旅行専用の24時間感染電話相談をはじめとする修学旅行の安心・安全な受入環境整備に取り組んでまいりました。令和3年は、学校関係者や保護者の皆様、そして何より子どもたちの強い思いと日々の努力が実を結び、推計で年間約20万人の修学旅行生を安全にお迎えすることができました。

令和4年度におきましても、引き続ききめ細やかで安心・安全な受入環境の一層の充実を図ってまいります。また、修学旅行中の3密を解消するために必要な経費等を支援する「京の修学旅行3密防止対策等支援事業（京都府事業）」については従前の内容に加えて、京都府内の広域周遊や教育関連施設を利用される団体を対象に支援を充実しております（別紙1参照）。同事業の詳細については、京都府から4月下旬頃に改めて御案内しますので、御確認をよろしくお願いいたします。

さらに、新たな取組として、この度、学校の関心やニーズが高いSDGsに関する探求学習プログラム「なんで？がいっぱい、京都と学ぶSDGs『Q都スタディトリップ』」の運用を開始いたしました。1200年を超えて文化と自然が調和し発展し続けた、まさにSDGs先進都市・京都ならではの内容になっており、学校での事前学習から旅行中の体験学習・交流、事後学習までじっくり学べるコンテンツも用意しています。生徒の皆様に「修学旅行でSDGsを学びたい！」「SDGsについてよく分かる！」と思っただけのようなSDGsの17のゴールすべてに対応するプログラムとなっておりますので、ぜひ御活用ください（別紙2参照）。

これからも引き続き、旅館やバス事業者、社寺・観光施設等の関係者が一丸となり、千年を超える歴史を紡いできた京都のまちを安心・安全に学んでいただけるよう、全力で取り組んでまいります。皆様のお越しをおもてなしの心でお待ち申し上げます。

なお、昨年・一昨年度、本市からは全市立小・中学校の児童生徒が府外への修学旅行を安全に実施することができました。関係の皆様の御協力に、心より感謝申し上げます。

※ 都道府県教育委員会におかれましては、管内の市町村教育委員会への御周知に御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

きょうと修学旅行ナビ <https://shugakuryoko.kyoto.travel/>



令和4年度 京都の修学旅行 安心・安全な受入環境整備の概要

京都では、府と市、観光関連事業者等が連携し、感染症対策に取り組むとともに、きめ細やかなサポート体制を構築し、修学旅行生のみなさんをお迎えします。



継続 修学旅行専用電話相談（京都観光推進協議会事務局） 修学旅行の一般的な相談（平日のみ）

継続 きょうと修学旅行ナビ 新型コロナ特設WEBページ  **情報発信強化**
 修学旅行に役立つ様々な情報や京都府内の感染状況、観光施設等の再開状況など

継続 京都版修学旅行ガイドライン「新しい修学旅行『京都スタイル』」
 感染疑い発生時の対応フローや各種助成事業の紹介に加え、宿泊施設や公共交通機関などの事業者ごとの感染症対策、学校にお願いしたい感染症対策などを掲載 **府・市**

継続 事前学習「きょうと」徹底攻略
 修学旅行ナビで、学習動画や教材を提供

継続 きょうと修学旅行専用24時間感染電話相談
 京都滞在中の健康上の相談に対応
 ↓
 相談員が医療機関を調整
 ↓
 医師の判断により検査実施 **府・市**

充実 3密防止対策等支援事業 ※1
 3密回避のために、当初予定していた移動手段等を変更する場合に必要な追加経費に対する助成
 支援内容：貸切バス・タクシーの増車、バスからタクシーへの変更、宿泊施設等の部屋数の増加
※旅行内容（府内の広域周遊や教育関連施設の利用の有無）に応じて補助上限額が変動 **京都府**

継続 <陽性となった生徒を対象>
①入院時スマートフォン貸出事業
 入院中の生徒に対し、保護者等との連絡用にスマートフォンを貸出し **京都市**
継続 ②陽性時保護者等支援事業 ※1
 対象生徒が京都に滞在する場合に要する経費に対する助成
 支援内容：送迎を行う保護者等の交通費や宿泊料等
 当該生徒の居住地への移動に要する交通費 **京都府**
継続 <濃厚接触の可能性のある生徒を対象>
緊急帰宅費用助成 ※1
 濃厚接触者となる可能性のある生徒が緊急帰宅する場合の居住地までの交通費に対する助成 **京都市**



新規 新たな探究学習プログラムがスタート！
 ～なんで？がいっぱい、京都と学ぶSDGs～  **京都 Study Trip**
 ・1200年続くまち・京都にはSDGsの探求につながる「Q」がいっぱい
 ・学習動画やスタディシートも配信

修学旅行向けSDGs探求学習プログラム 「^{きゅーと}Q都スタディトリップ」の運用開始について

1 プログラムについて

(1) 概要

「なんで？がいっぱい、京都と学ぶSDGs『Q都スタディトリップ』は、SDGsに関する、探求学習プログラムです。また、SDGs先進都市・京都（※1）ならではの各種学習コンテンツを御用意しており、生徒の皆様に「修学旅行でSDGsを学びたい！」「SDGsについてよく分かる！」と思っただけのようなプログラムとなっています。

（※1）日本経済新聞社が全国815市区を対象に実施した「SDGs先進度調査」では、京都市が上位に選ばれています。（令和元年度1位、令和2年度2位）

また、内閣府が選定する「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」においても京都市が選ばれています。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000284783.html>

(2) 特設Webサイトについて

<https://q-sdgs.kyoto.travel/>

<開設日時>

令和4年4月1日（金）

<主な内容>

- 導入として、SDGsや、京都でSDGsを学ぶ意義を動画等で紹介
- SDGsの17のゴールと関連する20件の学習コンテンツ（※2）と、その提供企業・施設を紹介
- 学習の補助資料「Q都スタディーシート」を提供



（※2）学習コンテンツについて

- ・SDGsの17のゴールに対応する20件の学習コンテンツを、学校の多様なニーズに対応できるよう提供
- ・施設見学等により旅行中に1～2時間で手軽に学べるコンテンツ（19件）
- ・コーディネーターとともに、学校での事前学習から、旅行中の体験学習・交流、事後学習まで、じっくりと学べるコンテンツ（1件）

(3) 特徴

- 1200年にわたり様々な危機に直面しながらも1つのまちであり続けた世界でも稀有なまち「京都」をSDGsのヒントとなる舞台として紹介
- 1200年分の願いと工夫を、「なんでだろう？」と問いかけることで子どもの関心を引き出し、その謎解きをSDGs探求につなげる学習コンテンツを提供する。
- 学習コンテンツの提供には、先人の願いと工夫を紹介するとともに、地域企業、これからの1000年を紡ぐ企業認定の認定企業等と連携

2 お問い合わせ

京都市産業観光局観光MICE推進室

電話：075-746-2255

Q都スタディトリップは、1200年つづくまち京都で 「なんでだろう？」から「どうしよう？」を考える、SDGs探求学習コンテンツです。

京都は、さまざまな危機に直面しながらも各時代の人々の「願い」と「工夫」の積み重ねで、今の姿がつけられました。その結果、京都には地球も人もたいせつにしたおもしろい工夫が息づいていて、それが今も京都を支えています。

そんな京都には、SDGsが目指す「持続可能な世界」のヒントとなる「Q（なんでだろう?）」がたくさん。1200年分の「Q」が詰まった京都への学びの旅を、はじめよう。

詳細はこちら!

WEBサイトの「CONTACT」フォームより質問・相談などお気軽にお問い合わせください。

Q都スタディトリップ
WEBサイト



Q都スタディトリップの学びの流れ

動画でめぐる、Q都スタディトリップ



興味をもった方には最初に見て頂きたい、Q都スタディトリップの学びをまとめた約15分間のアニメーション映像です。

「なんでだろう？」があふれる、Qリスト



WEBサイトの「Qリスト」に立ち並ぶ「Q（なんでだろう?）」から、興味のあるQを探してみましょう。

「どうしよう？」を考えるミッションに挑戦



京都で活動する方々の「おもしろい工夫」から学んだあと、SDGsのテーマに関連するミッションに取り組んでみましょう。

Q都スタディトリップの特徴



Q都スタディトリップでの学びをサポートする、だれでも自由に使える学習教材がWEBサイトからダウンロードできます。リサーチしたこと、考えたことをまとめることに役立ちます。



旅前から旅後まで、京都の企業が「Q都コーディネーター」となって、学びをサポートするプログラムもご用意しています。



自然を大切に、地域に根ざした商いを続けてきた旅館。今回、Q都スタディトリップとコラボレーションし、SDGsについて学べる機会をつくります。